

令和元年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

1. 保育理念、保育観		
1	園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	B
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>年度の始めには、理事長、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けていますが、年度途中で採用された職員については、その時間があまり取れなかったことが反省点としてあげられる。全体的な計画については前年度と大きな変更点がなかったため、全体での検討会は省略したが、乳幼児ミーティングなどで、内容は確認し合っている。</p> <p>年度の終わりには保育の反省や指導計画などの見直しを行い次年度へ役立つよう活用されているが、全体での発表の場がないので、</p>		
2. 保育計画、保育実践と振り返り		
1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス会議でその内容について見直しや話し合いが行われている。</p> <p>また、常勤、パートなど雇用形態に関わらず、すべての保育者は毎月、その月の保育計画にそって、自分の保育における子どもの評価と自己評価を書き表し、反省評価が次月につながるようになっている。モンテッソーリ教育の講師である伊藤先生の指導のもと、子どもの発達を観察しながら環境整備を進めていくので、保育者は子どもの発達をしっかりと頭に入れながら保育にあたる努力がされている。</p> <p>保育計画の中では、行事についての検討もされている。今年度は2月より新型コロナウイルス対策により、行事の在り方を検討することになったが、幼児の心身の発達の成長に必要な行事は、内容や行い方を検討し、規模を縮小したり、やり方を変えながらも、目的をよく考えながら行う</p>		
3. 環境、安全		
1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	A
3	職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>モンテッソーリ教育を通して保育室の環境は充実し、適切な援助がされているといえる。</p> <p>現在、園庭は完成へ向けて歩みを進め、計画や施工がされている最中であるが、四季を感じられる木々や草花などが少しずつ育っている。木々の成長には時間がかかるが、成長過程も観察材料にしながら保育へ取り入れる。</p> <p>安全管理においては副園長を中心に行われており、気になることには素早く対応し、改善が計られている。</p> <p>最近は大規模台風や集中豪雨などの自然災害の被害も大きく報じられるようになっているが、本園は大きな山を背中に抱えているので、避難訓練では土砂災害の設定も新たに取り入れた。</p>		
4. 食育		
1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	B
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A
<p>じゃがいも、さつまいもの芋ほり体験をはじめとし、季節の野菜を栽培してクッキング活動に役立てたり、給食では旬の食材を積極的に取り入れて季節の味わいを楽しむことができている。</p> <p>食育活動の中心は保育の中でのクッキングが主になっていて保育者が中心となって行うことが多く、調理員や栄養士の携わりが少ないことが課題としてあげられる。今後は専門的な立場からの食育も行えるように計画をしている。</p> <p>食物アレルギーの除去食については家庭と連携してきめ細かく対応している。保護者の中には医師証明の取得に協力的でない人もいるが、子どもの生命の維持に必要な重要なことであるので、園の方針のもと受診を促している。</p> <p>小麦アレルギー児が今年度で卒園となり、在園中は大きな事故なく、アレルギー対応ができたことは給食室の努力を評価できる。</p> <p>保護者への給食アンケート調査では、園の給食における満足度は高い評価を得ているので、今後も保護者の期待に応えられるようなおいしい</p>		

5. 職員構成、役割分担、研修		
1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
2	園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A
<p>年度初めに主幹保育教諭を中心に、園務分掌として、園の運営における係や行事担当を決めているが、各職員の個性や得意なことを生かしながら、適材適所の配置を心がけ、一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。</p> <p>園内、園外の研修には人員配置を工夫しながら積極的に参加するようにしているが、研修報告の時間や場がなかなか持てなく、回覧で済ませてしまうことが多いことが課題である。しかしそれも各個人の時間には限りがあるので、メール配信で研修報告の内容を送信し、各人の都合に合わせて閲覧できるように工夫したことで、以前より、研修報告をしっかりと閲覧できるようになっている。</p> <p>なお、すぐに他の職員に知らせた方がよい内容のものは、ミーティングで伝達したり資料を配布して早めの周知に役立っている。</p>		
6. 保護者支援、子育て支援		
1	保護者に対し、園の保育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
2	保護者の状況など、個人情報の漏えいに気をつけている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	A
<p>園だよりやクラスだよりは、日頃の活動の様子を伝えられるよう、カラー印刷でわかりやすく時間をかけて作成し、努力している。</p> <p>各保育者は、毎月の子どもの様子を観察し、保護者へ発信したいことや、子ども達の成長をよくまとめたものを作成し、保護者からも好評を得ている。また、門扉の横にある大きな掲示板では、園の活動紹介を写真を交えて積極的に行い、保護者だけでなく、地域の子育て中の親子や地域へ向けてのよい情報発信の場となっている。</p> <p>また、月1度の‘子育てサロン’には毎月大勢の地域の親子が来園されるので、ただの場所提供だけでなく、いろんな催しを考え、親子がリフレッシュしたり、子育ての悩みや不安を解消できるよう保健師さんや講師の先生を呼び、有意義な時間となれるよう、毎回いいいな準備をしている。</p> <p>個人情報の取り扱いには、全職員が細心の注意を払っているが、たまに通園かばんの取り違えや、汚れ物の入れ間違いが起こるので、ひとり</p>		
7. 小学校や地域社会との連携		
1	定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	C
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	A
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	A
<p>地域の小学校、保育園、幼稚園との交流の場は基本的にない。これは、地域全体で取り組まないとなかなか難しい課題であるともいえる。</p> <p>正式な場はないが、年長児においては、小学校の授業参観や運動会を保護者と一緒に見学に出かけることを勧めるなどしている。</p> <p>また、園の運動会には、地域の親子連れの方や老人会、小学生を招待したり、地域の年2回の祭りには園児、職員ともに積極的に参加し、交流の場を設けるとともに、将来的に地域の担い手として活躍していく地域の子どもとして楽しく経験を積んでいる。</p> <p>地域の老人ホームへの慰問には年3回出かけ、世代間交流を体験する貴重な場となっている。</p> <p>実習生の受け入れについては、職員全体が温かく迎え入れる姿勢を持ち、丁寧な指導を行いことを心掛けている。受け入れ後の礼状などを見ても、有意義な実習経験になっていることが伺える。</p>		